

石川県は、高度経済成長期、重化学コンビナートの誘致などに地域経済を委ねず、独自の地域経済を形成してきた。国際化が

進む 21 世紀こそ、そのような視点を新たに発展させるべきではないだろうか。

(奈良女子大学生生活環境学部助教授)

CURES Salon

駐車場より客室にコストをかけて欲しい

白石 弘 幸

7 月末、集中講義を開講すべく北海道教育大学函館校に向かった。同校付近には宿泊施設が無いので、函館空港に降り立つとレンタカーを借り、函館駅近くの繁華街に向けて走らせた。予約したホテルは、一応駐車場こそ立派であるものの、建物の外観は古く不吉な予感を抱かせるのに十分なものであった。

実際、これがとんでもないホテルだった。守衛所のようなフロントに立つと、中にいる無愛想この上ないオヤッサさんから「宿泊代は前金でね」と言われ、部屋のカギとせっけんを渡された。サービス精神が全く感じられない対応に面食らった。大体、せっけんをフロントで手渡されたのは初めてだ。予約の際に電話で「税込、サービス料無しの 5400 円」と言われていたが、「サービス料無し」というのはこういうことだったのかと納得した。

この分だと客室も推して知るべしと不安を感じつつドアを開けたところ、案の定、粗末なベッドとライティングデスク、テレ

ビが置かれているだけの薄暗い部屋だった。シャワーを浴びる前に、日課の腕立て伏せと腹筋運動をやろうとしたら、それだけのスペースさえない。テレビは百円玉を入れる旧式であるばかりか、スイッチを押してもすぐオフになる。仕方がないので、テレビを見る時はスイッチ部分に丸めたティッシュを押しかけて、文房具屋で買ってきたセロテープで固定して、常にスイッチが押さされている状態にした。

ちょうど函館祭り期間中で、ホテルはどこも満室のはず。考えてみれば、都会で車を丸一日駐車したら 5000 円、6000 円の駐車代は当たり前。一日 5400 円で立体可動式の立派な駐車場が使い放題で、しかもその横で宿泊もできるのだから安いもの。フロントにいるあの無愛想この上ないオヤッサンだって駐車場の守衛さんなのだ。接客業務に不慣れでも仕方がないのではないかと開き直り、その「宿泊施設完備の駐車場」で 2 週間寝泊まりすることにした（正確に言うと、途中で一度金沢に戻っているの

日間)。

滞在中、地元企業に勤めている北海道在任時代の友人二人が旧市街を案内してくれた。食事をした国際ホテルのスカイラウンジは市街と港の夜景が見渡せ、男三人でいるのが気恥ずかしくなる程オシャレな雰囲気にも包まれていた。若者の間ではデートスポットとしてさぞかし有名な所に違いない。夕食後、友人達と金森倉庫脇を末広町に向かって歩いた。正面に函館山を仰ぎ、右から海からの潮風を受け、左から街路灯の淡い灯を浴びる格好になる。楽しげにそぞろ歩きする家族連れも多く、私自身、柄にもなく家内と子供が一緒だったらなあと思った。

私を集中講義に呼んでくれたK先生によると、北教大函館校でも教員の関心事はやはり独法化問題で、同校の今後のあり方を含めさかんに討議されているとのことだっ

た。ただし北教大の場合、これとは別に、五つの分校の統廃合という数年来の問題がある。行政側が岩見沢校と札幌校の統合を打ち出したこともあったが、地元住民、商店会の猛反対で反故にされた。したがって地元の支持があれば大学は存続するというのが、K先生の意見だった(これについては同様の意見を本学部の独法化ワーキンググループ会議で耳にしたことがある)。

学生の関心事はご多分に漏れず就職だった。私の担当した講義には地元北海道出身でかつ公務員志向という学生、特に道庁あるいは地元市役所を志望する者が多かった。「どうして中央省庁を目指さないの?」と聞くと、「北海道で生まれ育ったのだから、北海道で働くのが一番自然」という答が返ってきて、良かれ悪しかれ道産子(どさんこ)らしさを感じた。

(金沢大学経済学部助教授)

CURES Topic

介護保険をめぐる議論と論点

横山 寿一

7月から9月にかけて、日本医療経済学会(9月9~10日、京都)、全国社会福祉研究交流集会(8月26~27日、名古屋)、スウェーデン・セミナー(8月5日、金沢)、自治体学校(7月21~23日、奈良)、など介護保険・介護問題を取り上げた催しに、報告

者として、シンポジウムのコーディネーターとして、あるいは主催者として関わる機会を持った。いずれも介護問題の研究と実践にとって重要な問題提起を数多く含む企画で大いに刺激を得た。自分の報告にも触れながら、議論となった点をいくつか紹介す